

いのち わ ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画 目黒区生物多様性地域戦略 短期目標の指標評価



目黒区は、自然と共生するまちを目指し、2014(平成 26)年 3 月に「目黒区生物多様性地域戦略 ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」を策定しました。本計画は、野鳥を自然環境のシンボルとしてとらえ、人と自然が共存できる質の高いみどりのまちづくりを、区民とともに実現しようとするものです。目黒区では、本計画の普及、及び自然的環境の保全・回復を図るため、野鳥のすめるまちづくり運動を推進しています。

短期目標の指標評価について

本計画では、本計画の普及や生物多様性の確保(保全・回復)等に関する対象期間を 2032(令和 14)年、短期目標の目標年を世界で取り組んでいく愛知目標の目標年である 2020(令和 2)年としています。その間の進み具合は、設定した指標に対する実績など、主に数値による進行管理を行うことで 3 つの目標の達成具合を確認します。この評価を基に本計画の目標の見直しや必要な改定を行います。なお、次の目標達成具合の確認は 2026(令和 8)年に行います。

評価の方法

本計画では 3 つの目標について策定当初に設定した「短期目標の指標」の 2018(平成 30)年度時点の達成状況で評価します。



目標	短期目標の指標	達成状況	評価												
目標 1 みどりの風景をまもり、いきものにやさしさのある環境をつくりまします	野鳥の年間確認種数 50 種を維持し、70 種を目指す 	53 種 策定当初 2013(平成 25)年 52 種	<ul style="list-style-type: none"> 50 種を維持しているものの、策定当初から微増の状況です。44 種から 57 種の間で推移しています <table border="1"> <tr> <td>年</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>50</td> <td>52</td> <td>44</td> <td>57</td> <td>53</td> </tr> </table>	年	26	27	28	29	30	確認種数	50	52	44	57	53
	年	26	27	28	29	30									
確認種数	50	52	44	57	53										
	タンポポ、ツバメ等の指標在来生物種の分布率 37% 50%	45.7%	<ul style="list-style-type: none"> 70 種を目指すため、野鳥のすめるみどり豊かな環境を育成し、みどりをつなげる取組が必要です 目標達成に至っていないものの、毎年分布率は増加しており、短期目標の 50%には着実に近づいています <table border="1"> <tr> <td>年</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>分布率(%)</td> <td>42.1</td> <td>43.2</td> <td>43.8</td> <td>45.4</td> <td>45.7</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き在来種が生息できる環境を保全・回復する取組が必要です 	年	26	27	28	29	30	分布率(%)	42.1	43.2	43.8	45.4	45.7
年	26	27	28	29	30										
分布率(%)	42.1	43.2	43.8	45.4	45.7										
目標 2 自然とのふれあいを大切にしたいめぐるの暮らしを未来に伝えます	世論調査における「生物多様性」の言葉の認知度 36.8% 80%	50.9% 2017(平成 29)年度目黒区世論調査	<ul style="list-style-type: none"> 策定当初より認知度が増加していますが、2014(平成 26)年度世論調査での 58.3%からは減少しています 言葉の普及啓発をより図るとともに、一人ひとりが生物多様性に配慮した行動を実践する必要があります 												
目標 3 すべての主体があらゆる活動で「ささえあう生命(いのち)の輪(わ)」の確保を目指した協力と連携を行います	グリーンクラブなど公園等で活動を行う登録団体数 106 団体 120 団体	112 団体	<ul style="list-style-type: none"> 策定当初から 6 団体増加しましたが、目標達成には至っていません 登録団体をより一層支援し、団体間の連携を図る必要があります 活動の輪を広げるため情報発信が必要です 												
	いきもの住民会議(活動団体・自然通信員等の研修、交流)開催の継続	開催	<ul style="list-style-type: none"> 毎年 1 回実施しています 今後も継続して実施し、身近ないきものを知り共有する場を提供することが必要です 												

短期目標の指標評価にあわせた目標見直しと計画改定の必要性

短期目標の 5 指標のうち、達成している項目は「いきもの住民会議(活動団体・自然通信員等の研修、交流)開催の継続」の 1 項目、一方、達成できなかった項目は他の 4 項目でした。達成できなかった項目の中でも「タンポポ、ツバメ等の指標在来生物種の分布率 37.8% 50%」は、短期目標に向け順調に推移しています。その他の達成できなかった項目は、現状維持・微増の状況であり目標達成に向けた進捗の改善が必要です。

短期目標の指標評価の結果、3 つの目標達成を継続して取り組むことが必要と判断し、目標の見直しや本計画の改定は行わないこととします。なお、短期目標の指標は 3 つの目標の達成具合を確認する指標と読み替えます。

区は、地域や公園で活動する団体などに必要な情報を提供・交換する場を作り、活動の支援など本計画を推進していくための土台づくりにより一層取り組んでいきます。自然環境・社会情勢の変化に応じて計画を見直し、目黒区みどりの基本計画や目黒区環境基本計画等との関連の中で、計画に基づく施策の進捗状況、成果や今後の課題について分かりやすくまとめ定期的に公表します。



野鳥のすめるまちづくり計画推進の取り組み



生物多様性保全林の指定

区立菅刈公園と区立駒場野公園を生物多様性保全林に指定し、いきものの生息拠点となる多様な自然環境の保全を図る取組を地域や活動団体などと連携して行っています。

菅刈公園 2014(平成26)年3月指定

公園内の崖線林に残る既存樹木の保全のために郷土種育成(平成の森づくり)及び効果検証や普及啓発を、地域住民を主体とするNPO法人と連携して実施しています。



クヌギの萌芽更新活動の様子



郷土種の苗木を植樹しました

駒場野公園 2018(平成30)年3月指定

希少種を含む多様ないきものが生息する公園内の樹林地や池・水田の環境保全・回復に向けた取組を、公園内で活動する地域住民によるボランティア団体や近隣の学校等との協働により実施しています。



地域ボランティアとのかいぼりの様子



小学校の児童がドングリからクヌギの苗木を育成しています

いきもの气象台調査(区民参加型生物調査)の実施

区民から区内にいるいきものの観察記録を集めて、そこから区の自然の姿や変化を把握する生物調査を実施しています。情報提供者を「自然通信員」として登録し、ニュースレター「自然通信員だより」の発行送付により、情報の共有や継続的な参加を図ります。2019(令和元)年10月時点で約1,300世帯が自然通信員に登録しています。

「自然通信員だより」や「いきもの住民台帳」の発行
集まったいきもの情報を紹介するニュースレター
「自然通信員だより」や区内のいきものリスト
「いきもの住民台帳」を発行しています。



自然通信員だより第65号



2018(平成30)年は年間テーマ種クモのいきもの住民台帳を作成しました

シジュウカラ巣箱モニター

区の鳥シジュウカラの巣箱を配布した巣箱モニターが営巣から巣立ちの様子までの観察記録を報告する調査です。2018(平成30)年は3つの巣箱で営巣し、9羽のヒナが巣立ちました。



いきもの住民会議の開催

いきもの住民会議は、区民・自然通信員の生物調査能力の向上を図る調査会であり、区民・自然通信員同士での交流の場ともなっています。毎年1回実施しており、2017(平成29)年は東京工業大学との協働で、「土のいきもの住民会議」を実施しました。



上:顕微鏡を使って土壌生物を観察しました
左下:発見したヨコエビ

自然観察教室(いきもの発見隊)の実施

区民の身近な自然や生物多様性に対する興味や理解を深め、自然環境保全の意識啓発を目的とした観察会を兼ねた生物調査です。目黒川では毎年実施しています。



目黒川でのいきもの発見隊の様子



目黒川で発見したアユ

ビオトープの管理・調査活動

区内の公園や学校等に、生物の回復を図るためトンボ等の生息できる池などのビオトープ(いきものたちの生息する空間)を設置し、自然的環境の回復の状況を継続して調査しています。



左:小学校の児童と実施したビオトープ活動
上:調査で発見したヤゴ